

◇学校派遣支援員等勤務形態一覧表

名称	職	採用人数	勤務時間等		勤務内容	備考
生徒指導支援員	市臨時職員	4名	週4日	5.5時間	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・暴力等の生徒指導に関する支援 ○その他教育委員会が必要と認める事項の支援 ○校内徘徊等、非行・問題行動対応への支援 ○教員等が行う教育相談等の支援 ○学校・家庭・地域の連携による校内外パトロールの支援 	西中 週2日(月火)【2名】 原市中 週2日(木金)【2名】 大石南中週2日(月火)【2名】 太平中 週2日(木金)【2名】 警察OBが中心
さわやか相談員	市臨時職員	各中学校 1名	週5日	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の相談に関すること。 ○教職員との連携に関すること。 ○学校・家庭地域社会に関すること。 ○その他、いじめ・不登校に関すること。 	
子ども学校生活支援員	県非常勤職員	4名 (現在3名)	週5日	5~6時間 (週29時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と家庭の連絡、連携に関すること。 ○生徒指導上の配慮を要する児童生徒への支援に関すること。 ○校内・校外の見回り活動に関すること。 ○その他、学校長が必要と認めること 	上尾中 週5日【2名】 瓦葺中 週5日【2名】 一般企業退職者
埼玉県警察 スクールサポーター	県非常勤職員	2名 (男女各1名)	週2日	7.5時間	<ul style="list-style-type: none"> ○非行防止教室の実施 ○校内非行グループを形成する生徒及び保護者への指導及び助言 ○中学校が実施する校内外のパトロール活動への支援 ○その他、少年課長から命ぜられた事項 	瓦葺中 週2日(水金)【2名】 警察OB
スクールカウンセラー	県非常勤職員	6名	週1回~ 3週1回	5時間50分	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員と共に生徒の指導について協議、臨床心理の視点から教職員への助言・援助 ○生徒・保護者への支援及びカウンセリング ○教職員、保護者対象の研修会等での助言や資料提供 ○中学校長が必要と認めた小学校での助言・援助及び児童・保護者へのカウンセリング ○関係機関との連携等、各学校において適当と認められる活動 ○その他緊急時における対応 	6人 1校勤務配置は毎週1回勤務 2校勤務配置は2週間に1回勤務 3校勤務の場合は3週間に1回勤務
スクールソーシャルワーカー	県非常勤職員		週2日	6時間 (年74日以内)	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ ○関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整 ○学校内におけるチーム体制の構築、支援 ○保護者に対する支援・相談・情報提供 ○児童生徒のカウンセリング 	

◇平成24年度 教育委員会の事務に関する点検評価 修正対照表

※修正部分のみ抜粋

<評価シート以外の部分>

修正箇所	8月定例会 協議	修正案																				
「事業評価判定」基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	評価基準	A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。	B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。	C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。	D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、<u>完了した事業を除き</u>、引き続き、継続していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、<u>完了した事業を除き</u>、一部を改善し、継続する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	評価基準	A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、 <u>完了した事業を除き</u> 、引き続き、継続していく必要がある。	B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、 <u>完了した事業を除き</u> 、一部を改善し、継続する必要がある。	C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。	D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。
	評価	評価基準																				
	A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。																				
	B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。																				
	C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。																				
D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。																					
評価	評価基準																					
A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、 <u>完了した事業を除き</u> 、引き続き、継続していく必要がある。																					
B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、 <u>完了した事業を除き</u> 、一部を改善し、継続する必要がある。																					
C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。																					
D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。																					

<事務事業評価シート>

No.	事業名	修正箇所	8月定例会 協議	修正案																																								
2	学級支援員派遣事業 (学務課)	評価指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>指標の説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置支援員数</td> <td>23人</td> <td>20人</td> <td>27人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支援員配置率</td> <td>—</td> <td>20.4%</td> <td>24.0%</td> <td>配置人数/申請数×100(%)</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	配置支援員数	23人	20人	27人		支援員配置率	—	20.4%	24.0%	配置人数/申請数×100(%)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>指標の説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級支援員 配置数</td> <td>23人</td> <td>20人</td> <td>27人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学級支援員+特別支援教育支援員 配置数</td> <td>33人</td> <td>30人</td> <td>47人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学級支援員+特別支援教育支援員 申請数</td> <td>135人</td> <td>141人</td> <td>198人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学級支援員+特別支援教育支援員 配置率</td> <td>24.4%</td> <td>21.3%</td> <td>23.7%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明	学級支援員 配置数	23人	20人	27人		学級支援員+特別支援教育支援員 配置数	33人	30人	47人		学級支援員+特別支援教育支援員 申請数	135人	141人	198人		学級支援員+特別支援教育支援員 配置率	24.4%	21.3%	23.7%	
指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明																																								
配置支援員数	23人	20人	27人																																									
支援員配置率	—	20.4%	24.0%	配置人数/申請数×100(%)																																								
指標名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	指標の説明																																								
学級支援員 配置数	23人	20人	27人																																									
学級支援員+特別支援教育支援員 配置数	33人	30人	47人																																									
学級支援員+特別支援教育支援員 申請数	135人	141人	198人																																									
学級支援員+特別支援教育支援員 配置率	24.4%	21.3%	23.7%																																									
3	理科教育振興事業 (指導課)	<p>●評価結果</p> <p>教育委員会評価</p>	<p>上尾支部科学教育振興展覧会への出品作品は、小・中学校で、夏季休業中の自由研究として研究に取り組みることが多く、毎年行われている教育活動である。上尾支部科学展に出品された研究物は、審査を経て小学校7点、中学校4点が北足立地区科学展に出品される。北足立地区科学展においても同様に審査が行われ、県中央展に選出される。本事業は、児童生徒の科学的な資質・能力の向上を図るとともに、展覧会を公開することで、市民の科学に対する興味関心を高める効果もある。なお、同様の取組は県内全市町村において実施されており、今後も継続して実施する必要がある。</p>	<p>上尾支部科学教育振興展覧会への出品作品は、小・中学校で、夏季休業中の自由研究として研究に取り組みることが多く、毎年行われている教育活動である。上尾支部科学展に出品された研究物は、審査を経て小学校7点、中学校4点が北足立地区科学展に出品される。北足立地区科学展においても同様に審査が行われ、<u>最優秀賞として14点</u>が県中央展に選出される。本事業は、児童生徒の科学的な資質・能力の向上を図るとともに、展覧会を公開することで、市民の科学に対する興味関心を高める効果もある。なお、同様の取組は県内全市町村において実施されており、今後も継続して実施する必要がある。</p>																																								
		評価指標	<p>次年度以降の目標設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標指標</th> <th>平成23年度実績</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埼玉県学習状況調査</td> <td>小学校 73.2%</td> <td colspan="2" rowspan="2">埼玉県平均正答率+5%</td> </tr> <tr> <td>理科 正答率</td> <td>中学校 53.9%</td> </tr> </tbody> </table>	目標指標	平成23年度実績	平成24年度	平成25年度	埼玉県学習状況調査	小学校 73.2%	埼玉県平均正答率+5%		理科 正答率	中学校 53.9%	<p>次年度以降の目標設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標指標</th> <th>平成23年度実績</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上尾支部科学展出品数</td> <td>144点</td> <td>165点</td> <td>165点</td> </tr> <tr> <td>県中央展選出作品数 (北足立科学展出品作品より14点が県中央展へ選出)</td> <td>2点</td> <td>3点</td> <td>3点</td> </tr> </tbody> </table>	目標指標	平成23年度実績	平成24年度	平成25年度	上尾支部科学展出品数	144点	165点	165点	県中央展選出作品数 (北足立科学展出品作品より14点が県中央展へ選出)	2点	3点	3点																		
目標指標	平成23年度実績	平成24年度	平成25年度																																									
埼玉県学習状況調査	小学校 73.2%	埼玉県平均正答率+5%																																										
理科 正答率	中学校 53.9%																																											
目標指標	平成23年度実績	平成24年度	平成25年度																																									
上尾支部科学展出品数	144点	165点	165点																																									
県中央展選出作品数 (北足立科学展出品作品より14点が県中央展へ選出)	2点	3点	3点																																									
5	魅力ある学校づくり事業 (指導課)	<p>●事業の概要</p> <p>事業の内容</p>	<p>市立幼稚園及び小・中学校において教育課題の研究を推進する。各学校に対して、3年ごとのサイクルで、2年間の計画的な研究を委嘱している。各学校では創意工夫を生かした教育活動を展開することにより、魅力ある学校づくりを行う。また、上尾市教育研究会に対して、全体研修会や各部会の研究の補助金を交付し、教職員の資質の向上を図る。</p>	<p>市立幼稚園及び小・中学校において教育課題の研究を推進する。各学校に対して、3年ごとのサイクルで【①研究準備→②研究1年目→③研究2年目<研究発表>】、2年間の計画的な研究を委嘱している。各学校では創意工夫を生かした教育活動を展開することにより、魅力ある学校づくりを行う。また、上尾市教育研究会に対して、全体研修会や各部会の研究の補助金を交付し、教職員の資質の向上を図る。</p>																																								

No.	事業名	修正箇所	8月定例会 協議	修正案
7	小学校理科支援員配置事業 (指導課)	●評価結果 特記事項	理科好きな児童を育成することを目的とした本事業は、観察・実験を充実させることで、科学に興味を持ち、科学的な思考力を身につけることにつながっている。本事業は、国の事業仕分けにより、平成24年度には統合・廃止される予定であるが、平成21・22年度の2年間、市内小学校への全校配置により、理科室内の掲示物や観察・実験に必要な器具の整理を行うことができた。23年度は6校への配置となったが、1校あたりの配置時数を増加し、きめ細かい支援が行えるようにした。小学校への理科支援員の配置は、理科教育の充実に効果的であったことから、市独自の事業としての継続実施及び学校応援団における学習支援ボランティア等による実施について、検討が必要である。	理科好きな児童を育成することを目的とした本事業は、観察・実験を充実させることで、科学に興味を持ち、科学的な思考力を身につけることにつながっており、平成21・22年度の2年間は、市内小学校への全校配置により、理科室内の掲示物や観察・実験に必要な器具の整理を行うことができた。23年度は6校への配置となったが、1校あたりの配置時数を増加させるなど工夫を施し、きめ細かい支援が行った。小学校への理科支援員の配置は、理科教育の充実に効果的であり、国においても、平成24年度をもって廃止予定であった本事業を平成25年以降においても継続する方向性での検討が進められている。今後の国の動向を注視しながら、市独自の事業としての継続実施及び学校応援団における学習支援ボランティア等による支援の実施について、検討していく。
10	英語弁論暗唱大会開催事業 (指導課)	●評価結果 教育委員会の評価	市英語弁論暗唱大会は、全国大会である高円宮杯全国中学生弁論大会の市内予選を兼ねており、県内市町村（地区）ごとに実施している。 市の弁論の部で第1位になった生徒は、埼玉県英語弁論大会に出場し、そこで上位に入賞した場合、全国大会にコマを進めることとなり、本大会を実施しない場合は、県大会等への出場者の選抜が困難となる。 英語学習の意欲付けを図るとともに、英語による表現力を高めることができる本事業は、今後も継続計測して実施する必要がある。	市英語弁論暗唱大会は、全国大会である高円宮杯全国中学生弁論大会の市内予選を兼ねており、県内市町村（地区）ごとに実施している。 市の弁論の部で第1位になった生徒は、埼玉県英語弁論大会に出場し、そこで上位に入賞した場合、全国大会にコマを進めることとなり、本大会を実施しない場合は、県大会等への出場者の選抜が困難となる。 全中学校にはALTが週5日間配置されており（事業番号12）、教育委員会としては、出場生徒の弁論及び暗唱の内容、文法及び表現方法、発音等について、ALTを積極的に活用するよう求め、各学校においては、放課後等にALTが出場生徒を直接、指導するなど積極的に活用を図っている。 英語学習の意欲付けを図るとともに、英語による表現力を高めることができる本事業は、今後も継続計測して実施する必要がある。
12	小・中学校ALT配置事業 (指導課)	●評価結果 特記事項	ALTの配置により、英語によるコミュニケーション能力やその素地を高める学習活動の充実が図られている。小学校1校に1名のALTを常駐することで、5・6年生以外の学年においても、通常の学校生活において直接、異文化に触れ、児童生徒の国際感覚等を一層はぐくむことができた。	ALTの配置により、英語によるコミュニケーション能力やその素地を高める学習活動の充実が図られている。小学校1校に1名のALTを常駐することで、5・6年生以外の学年においても、通常の学校生活において直接、異文化に触れ、児童生徒の国際感覚等を一層はぐくむことができた。 また、ALTの資質の向上を図るため、ALTが一同に参集する「ALTミーティング」を毎月、3回開催し、各校で実施した優れた授業実践等の情報及び教材の交換を行っている。さらに、教育委員会の学校訪問をとおして、担当指導主事が授業を参観し、その後に行われる分科会等において、直接、担当教員及びALTを指導するとともに、派遣元業者のコーディネーター等が定期的に配置校を訪問し、校長・教頭等からALTの勤務実態や教職員との人間関係等について情報を収集し、その都度、ALTに指導・助言を行い、授業の質の向上に努めている。
21	小中学校図書整備事業 (総務課)	●評価結果 教育委員会の評価	確かな学力と豊かな心をはぐくむため、子どもたちの自主的・自発的な学習活動の場として、また多くの情報を収集できる場として、学校図書館の果たす役割は大きなものがある。整備指標である「学校図書館図書整備標準」の達成を目標として、平成19年度から平成23年度までの整備計画を策定し取り組んできた。しかし現状では整備計画の達成までには至っていない。平成23年度に学校図書館管理システムを導入するにあたり、大規模な学校図書整理を行ったことにより廃棄冊数が増え、一時的に図書標準達成率が減少してしまったが、引き続き学校図書館を充実させるため、積極的に図書整備を推進していく。	確かな学力と豊かな心をはぐくむため、子どもたちの自主的・自発的な学習活動の場として、また多くの情報を収集できる場として、学校図書館の果たす役割は大きなものがある。整備指標である「学校図書館図書整備標準」の達成を目標として、平成19年度から平成23年度までの整備計画を策定し取り組んできた。しかし現状では整備計画の達成までには至っていない。平成23年度に学校図書館管理システムを導入するにあたり、全国学校図書館協議会が制定した「学校図書館図書廃棄基準」に基づき、大規模な学校図書整理を行ったことにより廃棄冊数が増え、一時的に図書標準達成率が減少してしまったが、引き続き学校図書館を充実させるため、積極的に図書整備を推進していく。

No.	事業名	修正箇所	8月定例会 協議	修正案
25	指導法改善事業 (指導課)	● 評価結果 特記事項	平成23年度から小学校において新学習指導要領が全面実施された。また、平成24年度からは中学校で新学習指導要領が全面実施となり、学習内容が増加されることから、授業の質の維持向上と指導方法の工夫改善が今後さらに重要となる。指導内容の理解を深め、指導方法の向上を図るため、研修会等の内容を一層充実させるとともに、新学習指導要領に対応した図書の購入・配布等教育環境の整備を一層図る必要がある。	平成23年度から小学校において新学習指導要領が全面実施された。また、平成24年度からは中学校で新学習指導要領が全面実施となり、学習内容が増加されることから、授業の質の維持向上と指導方法の工夫改善が今後さらに重要となる。指導内容の理解を深め、指導方法の向上を図るため、研修会等の内容を一層充実させるとともに、新学習指導要領に対応した図書の購入・配布等教育環境の整備を一層図る必要がある。 教職員を対象とする研修については、新学習指導要領に対応したデジタル教科書を活用し、学習指導要領のねらいを踏まえた指導方法等の研修会を、各月1回以上実施するとともに、ICTの活用や各教科等の指導方法等を教職員が自主的に研修できる機会として教師力アップ講座を夜間や土曜日等に開催し、教職員の資質・指導力の向上を図った。平成23年度は、新学習指導要領対応の教師用指導資料を全小学校に配布し、指導の充実を図るとともに、デジタル教科書を全教員のPCにインストールし、指導方法の工夫改善を図った。また、デジタル教科書導入に関わり、ICT活用研修会の開催回数を増やした。
26	小・中学校音楽会開催事業 (指導課)	● 評価結果 教育委員会の評価	音楽的な活動をととして、情操豊かな児童生徒の育成を図ることは、児童生徒の肉体的な成長を促すことにもなる。現在、市では各学校の枠を超えた交流活動は、小学校において、連合運動会、親善球技大会であり、中学校では、部活動における各種大会が中心となっており、いずれも体育的活動が多い。文化芸術の振興のためにも、本事業のような音楽的活動は効果的である。また、音楽教育の成果を発表し合える場を設けていくことは、児童生徒の豊かな心を育成するためにも効果的である。 平成23年度は上尾市歌を全員合唱として、参加した児童生徒全員で合唱した。上尾市歌の合唱については今後も継続していく。参観した保護者に音楽会の内容についてアンケート調査を行ったところ、調査結果は、「よかった」96.4%、「おおむねよかった」3.6%であった。	音楽的な活動をととして、情操豊かな児童生徒の育成を図ることは、児童生徒の肉体的な成長を促すことにもなる。現在、市では各学校の枠を超えた交流活動は、小学校において、連合運動会、親善球技大会であり、中学校では、部活動における各種大会が中心となっており、いずれも体育的活動が多い。文化芸術の振興のためにも、本事業のような音楽的活動は効果的である。また、音楽教育の成果を発表し合える場を設けていくことは、児童生徒の豊かな心を育成するためにも効果的である。 平成23年度は上尾市歌を全員合唱として、参加した児童生徒全員で合唱した。上尾市歌の合唱については今後も継続していく。参観した保護者に音楽会の内容についてアンケート調査を行ったところ、調査結果は、「よかった」96.4%、「おおむねよかった」3.6%であった。 会場規模及び時間的な問題により、全小・中学校がそれぞれの各学校の発表を聞くことができないこともあるが、音楽会の開催をととして、各小中学校が文化的な連携を深め、小中学校で行われている音楽会へ互いに参加するなどしてきている。
29	道徳教育研究推進モデル校事業 (指導課)	● 評価結果 特記事項	研究推進モデル校が中心となり「彩の国の道徳」の活用方法について研究を進めたことにより、研究成果を市内各小中学校で共有することができた。また、「家庭用 彩の国の道徳」の活用をととして、学校、家庭・地域が連携して道徳教育を推進することができた。上平北小・上平中学校が連携し、合同研修会や授業参観などを行うことで、小中連携を推進できた。「上平北小学校道徳ムーブメント」、「上平中道徳スタイル」が作成されたことにより、市内各学校の道徳教育の一層の推進を図ることができた。	研究推進モデル校が中心となり「彩の国の道徳」の活用方法について研究を進めたことにより、研究成果を市内各小中学校で共有することができた。また、「家庭用 彩の国の道徳」の活用をととして、学校、家庭・地域が連携して道徳教育を推進することができた。上平北小・上平中学校が連携し、合同研修会や授業参観などを行うことで、小中連携を推進できた。「上平北小学校道徳ムーブメント」、「上平中道徳スタイル」が作成されたことにより、市内各学校の道徳教育の一層の推進を図ることができた。 研究推進モデル校の指定は平成23年度、平成24年度の2年間で終了となるが、いじめ問題が社会問題化し、「心の教育」の重要性が認識されていることから、2校が研究してきた内容については、市内全小中学校において共有化し、本市の道徳教育の一層の充実を図っていきたい。
44	情報教育支援員配置事業 (指導課)	● 評価結果 教育委員会の評価	ICT化の進む社会に生徒たちが積極的に対応できるように児童生徒の情報発信能力の養成という観点からの教育活動も求められている。教育の情報化を推進することは、子どもたちの情報活用能力の育成や、デジタル教材等を活用した授業を実施することができ、確かな学力を育成する上でも大変有効なものである。また、情報教育支援員は、児童生徒への個別指導の支援だけでなく、各種掲示の作成、ホームページの作成補助など、学校における情報関係の業務を行い、学校の教育活動を支援することができた。	ICT化の進む社会に生徒たちが積極的に対応できるように児童生徒の情報発信能力の養成という観点からの教育活動も求められている。教育の情報化を推進することは、子どもたちの情報活用能力の育成や、デジタル教材等を活用した授業を実施することができ、確かな学力を育成する上でも大変有効なものである。また、情報教育支援員は、児童生徒への個別指導の支援だけでなく、各種掲示の作成、ホームページの作成補助など、学校における情報関係の業務を行い、学校の教育活動を支援することができた。 3年間の支援員配置事業により学校ICT化の基盤づくりを整えるとともに、併せて、教職員を対象とした学校ICT活用研修会等により学校のICT化の推進を図っている。学校ICT推進運営委員会を中心に、今後も組織的、継続的に学校のICT化を推進していく。